

上田市教育委員会 1 月定例会会議録

1 日 時

令和 2 年 1 月 2 2 日（水） 午後 3 時 0 0 分から午後 4 時 1 0 分まで

2 場 所

上田駅前ビルパレオ 5 階 上田市教育委員会 第一会議室

3 出席者

○ 委 員

教 育 長	峯 村 秀 則
教育長職務代理者	北 沢 秀 雄
委 員	平 田 利江子
委 員	横 関 妙 子
委 員	綿 谷 憲 一

○ 説 明 員

中澤教育次長、池田教育参事、石井教育総務課長、翠川教育施設整備室長、緑川学校教育課長、竜野生涯学習・文化財課長、西嶋人権同和教育政策幹、池田スポーツ推進課長、青木丸子地域教育事務所長、宮崎真田地域教育事務所長、宮越武石地域教育事務所長、小泉中央公民館長、深町丸子学校給食センター所長、酒井塩田公民館長、滝沢上田市立博物館長

1 あいさつ

教育委員会では令和2年に変わり、施策や事業、メンテナンス等を当初予算に反映していくわけである。あと2カ月と少しで新年度を迎えるわけだが、委員の皆さまには引き続き、各課各所属へお気づきの点、ご希望の点をお出しいただき令和2年の事業を充実に向けて努めてまいりたいと思う。

2 協議事項 なし

3 報告事項

(1)「5大学リレー講座」の実施報告について(生涯学習・文化財課)

○資料1により竜野生涯学習・文化財課長説明(要旨)

5つのそれぞれの大学において、取組み等を市民の生活や地域づくりに役立てていただくため11年目の開催となる。内容等については、資料1記載のとおりであるが、④の信州大学については、当初10月12日(土)に行う予定であったが、台風のため12月に延期して無事に5回目まで開催することができた。今回は164名の方に受講をいただいている。資料の下の方にアンケート結果ということで記載しているが、当初はやはり、60代70代の方が多いことと新規受講者が1割弱と少なく、常連さんが多い講座になってきていることでこの点については、良い点悪い点を今後検証し、改善を含めて取組んでまいりたいと思う。講座内容については9割の方が満足している。いちばん下のポツであるが、次年度以降についても継続を望む意見が多くあったということなので、事業として持続して取組んでまいりたいと思う。

峯村教育長

ただ今のご質問について、ご意見ご質問等お願いしたい。
よろしいか。

○全員了承

(2)「第32回いのち・愛・人権展 うえだ人権フェスティバル」の開催について(生涯学習・文化財課)

○資料2により西嶋人権同和教育政策幹説明(要旨)

今年で第32回目となる「うえだ人権フェスティバル」についてご報告させていただく。日時は令和2年2月22日(土)、23(日)の両日にわたって行われる。場所は丸子文化会館、内容については資料2の中ほどに記載がある。この人権フェスティバルは、例年各地域をまわっていて、去年は西部地区その前は川西地区ということだが、本当は上野が丘でということだったが、資料のいちばん下に記載がある上野千鶴子さんをお呼びすることができたが、上野が丘公民館だとキャパが足りないことから、3年前にも行ったこともある丸子セレスホールで23日午後1時30分から講演会を開催することになった。上野千鶴子さんについては、社会学者であり東京大学の名誉教授ということである。また、今年の東大の入学式でかなり世間を騒がせたということで、その中の内容では支え合って生きることを祝辞の中に述べられていたが、今回も多少近い内容で講演していただく予定である。

峯村教育長

うえだ人権フェスティバルについて、ご意見ご質問のある方お願いしたい。
よろしいか。

○全員了承

(3)「令和2年成人式」実施報告について（生涯学習・文化財課）

○資料3により竜野生涯学習・文化財課長説明（要旨）

資料3をご覧ください。今回も無事に特段のことはなく開催ができたことを委員の皆さまにお礼を申し上げたい。こちらの方の報告であるが、中ほどに出席数、それぞれの会場ごとに掲載させていただいた。それぞれご覧いただいて、参考までに昨年度の出席率を右側に記載させていただいたが、それぞれの会場でも昨年度より多く出席をいただき、出席率がよかった。また、4に過去の実績の記載があるが、平成29年度は特に出席が多かったが、だいたいの会場でも出席をいただいている。また、5の成人式ビデオメッセージの上映について、統一的に取組んだ点はビデオメッセージであるが、今回は、それぞれすべての会場で成人式実行委員会がビデオの思い出スライドショーを上映している。また、アトラクションについても旧上田市で今まではそれぞれの会場であったがアトラクションを行わない会場も出てきている。それぞれの実行委員さんの独自性が出てきていることが特徴だと思っている。今後の成人式については、先ほども申し上げたように検討しながら、より良い成人式になるように努めたいと思っている。

峯村教育長

委員の皆さまには、成人式の大切なところを担っていただき、全部をご覧くださいただけだが、感想や問題点等あれば含めてお話しいただきたい。

北沢委員

サントミューゼができたときに、上田市全体の成人式を一つの会場で行うという話があったと思う。今後、もしそのような話があっても、今のままで良いと思っている。その理由をいくつか述べると長くなってしまうので控えさせていただくが、この5年間ですべての成人式の会場をまわった感想は、それぞれの会場によって違いがあり工夫されていて素晴らしいということ。例えば、記念品の渡し方も違う、また、アトラクションも全く違う内容なので、非常に手作り感があってよい。今年は上野が丘へ行ったが、当初予定にはなかった東京でダンスの修行をしている彼がダンスを披露してくれ、たいへん盛り上がった。年々、実行委員の皆さんの力によって、素晴らしい成人式になっていると感じている。

峯村教育長

ほかにはいかがか。

平田委員

私は丸子会場と創造館へ行かせていただいた。創造館は例年通り三好町保育園の太鼓の演奏があり、大変可愛らしくて成人式に花を添えていた。今年アトラクションがなかった会場はどのような感じだったのか伺いたい。

竜野生涯学習・文化財課長

アトラクションはないが、文化会館と上野が丘公民館はそれぞれで思い出スライドショーを実行委員会が当時の写真などを使って上映した。上田市からのビデオメッセージではなく、自分たちで思い出のスライドショーをつくって上映したいということでそちらの方に時間を費やした。他の公民館の会場については、ちょうど昨日21日にUCVでオンエアされていて、委

員さんもおっしゃっていらっしゃったが、最後にジャズダンスのパフォーマンスが、ものすごく皆さんで盛り上がったと思う。そのような形で実行委員さんと支援をする公民館の職員の方が1名、上手にうまく取組んで実行委員さんの意思を具現化したのかと思っている。中央公民館においてもおそらくそうだったと思う。できるだけ実行委員さんの特色のある式ということで進んできているのかと思う。

平田委員

実行委員さん、若者たち主体で繰り広げていただけることは大変ありがたいと思う。ダンスパフォーマンスという発想も素敵である。地域を知るという意味では信州上田学に通じるようなものがあったても良いのではという思いもある。多忙な中での活動となる実行委員さんを、公民館の職員の方がフォローし、時には誘導しながら、さらに特色ある式になることを期待している。今年もすばらしい若者たちの成人式を拝見することができた。

横関委員

私は武石小の体育館と塩田公民館へ行かせていただいた。武石地域は出席率100%ということで、それぞれが自分の目標を前に出て話すことは感動的なものだった。また、担任の先生がピアノを弾きながら自作の歌を歌ってくださることもあった。最後は校門のところで卒業式と一緒に場所で写真を撮るということで保護者の皆さんも記念に撮影していた。本当に和やかでアットホームな成人式でよかったと思っている。塩田地域は、塩田中学の吹奏楽の発表とスライドショーの上映だった。実行委員さんが忙しそうで大変そうだという感じが見られた。なかなか実行委員さんを受けてくださる方がいないというようなお話を伺ったが、せっかくの自分たちの成人式だから自分たちで盛り上げていこうという意識をこちらからもうまく投げかけていただければと思う。先ほどのように独自性を持ってということで、上野が丘公民館はダンスを披露した成人もいたとの事。それぞれ特技やいろいろな場所で活躍されている方も二十歳の方の中にはいると思う。軽井沢では大賀ホールで皆が歌った。自分たちが参加したという実感が持てる成人式、自分たちがどのような成人式にしたいのか、話を聞くだけでなく、様々な事例をこちらから伝えていただければ更に充実したものになるのではないかな。

峯村教育長

実行委員の皆さんは大変良く行っていたと思う。なかなかしっかりしていたが、実行委員に任せることと実行委員に教えずにはいけないことがある。例えば、ステージの上に教育委員会サイド、市の関係者が座るところに机がないところがある。逆に白い布をかけてきっちりと行ってくれているところもある。記念品を差し上げるところにお盆がないことなど、そのようなところは実行委員の皆さんに教えてあげるところではないかと思う。任せることと教えることをしっかり、何か1枚もののペーパーにして全会場統一しなければいけないことは何かということをお話していかなくてはいけないと思う。そのほか、武石地域の出席率106.7%とはなぜか。100%を超えている。

竜野生涯学習・文化財課長

分母については、住民票のある家庭に送るが、それ以上に転入など引越しをしてこられている方、働いて企業の方がきていると100%を超えるわけである。それに比べて上田文化会館や塩田公民館は出席率が低いという感じがすると思うが、上田文化会館は信州大学の学生さ

人が多いところである。塩田会場については長野大学、上田短大等の皆さんがお住まいである。結局、なかなかそのような子たちは出てこないという傾向がある。

峯村教育長

そのほかはよろしいか。

綿谷委員

令和2年度の成人式へ出席できなかったが、先ほど北沢委員のお話の中で私も全体で成人式を行うことはあまり好ましく思わない。やはり、その地域の中で育てられてきたことは非常に大事なことだと思う。地域の中で自分たちが力を合わせて行うことは郷土愛を育ませることである。これから大人になってもらう中で、そのような気持ちを持ってもらうことは大事だと思う。私も一昨年出席したとき非常に感動した成人式であった。今年も出席したかったが、二十歳の成人の皆さんがしっかりと取組んでいただいていることを感じている。これまでの成人式の行い方を続けていただきたい。

○全員了承

(4)「日本遺産」申請について(生涯学習・文化財課)

○資料4により竜野生涯学習・文化財課長説明(要旨)

日本遺産の申請内容については、皆さんに事前にお配りした資料だが修正のため、差し替えの資料で説明させていただく。日本遺産については、以前にもお話し、あるいは昨年からの取組をご承知されていることだと思うが、ちょうど今は国への申請手続き中であるがご報告をさせていただく。まず、申請にあたっては今回は最終の機会であり、文化庁とすれば100件程度を認定するというので、あと17件の枠の見込みである。本年度の主な経過と今後のスケジュールを目標にお示させていただいた。この間に文化庁や県の教育委員会との協議を行ってきた。また、庁内についても、特に未定のこの計画に沿って活用いただく観光課とは協議を重ねてきた。ちょうど観光課においては、観光ブランディングプロデューサーを(株)東急エージェンシーの高山慶子氏が任期付きできていて、そのプロの方から助言を得ながら進めてきた。文化庁が示している日程規準であるが、資料に記載はないが興味深さであったり、斬新さであったり、あるいは希少性、地域性ということが言われている。やはり、そのようなことを総合的に考えると国が求めているもの意は、テーマや地域を絞ったここではないというストーリーであり、その構成文化財には、やはりここに指定されたものに含めた方が有利であるというようにこの間、文化庁の協議の中で強く感じたことである。「資料2ページ」の裏面をご覧ください。下の欄に昨年度申請との比較をさせていただいた記載がある。1テーマについては、かなり絞らせていただいて、今回は、「太陽と大地の聖地」信州上田・塩田平～レイラインの輝きと温もりが繋ぐ「祈りのかたち」～として、3のエリア設定だが、認定後の観光客の周遊のしやすさも考慮し、コンパクトなエリアということで、塩田、別所と設定をさせていただいた。4構成文化財については、安楽寺八角三重塔(国宝)、前山寺三重塔(重文)を構成文化財としてあげている。次に「資料3ページ」をご覧ください。こちらの方に示させていただいている非常に重要なページになり、ここではほぼ二重ぐらいに絞られていて、今お話しした点を端的に生島足島神社をラインにその中を通過する太陽の光である。夏至と冬至付近にこういった風景が見られるということで、それを全面的に出した1ページをつくっている。次の「4ページ」をご覧ください。ストーリーとしては、塩田の土地の説明を最初に行い、そして前に戻り、後光ならではの祈りのかたち、そしてレイラインとして光のこと、それにわずらえ

てそれと同じ軌道に別所線があるのだということを訴えて、写真については、地元にお住まいの方にお借りして塩田の四季を晴天率の高さを示せる青空と光というものを前面的に出しながら配置をしている。こういった方向で進めたいということで事前の協議で文化庁へ行くことを非常に良い勧奨だったと聞いている。いずれにしても最後のチャンスということで24日が最終の文化庁への提出締切ということだが、最後までご協力をいただくようお願いしたい。

峯村教育長

ご意見ご感想をいただきたいと思う。

横関委員

資料4「3ページ」のストーリーの概要だが、最初に渡されたものと差し替え分が違っていて、差替えする前の文章の方がよかったと思う。

竜野生涯学習・文化財課長

結論として、その観光課にお越しにいただいている東急エージェンシーの高山さんの助言を聞く中で精査していただいたことで、できるだけすっきりとしたストーリーを覚えやすい形にした方が見てもらいやすいということで差替えている。ここに示したストーリーは、先にお渡しした内容等について、あとの構成文化財の説明等では取り上げているのでお願いしたい。

横関委員

祈りのかたちということがパワーとなったことでよろしいか。差し替え前のレイラインの輝きと温もりが繋ぐ祈りのかたちの方はロマンがあってよかったというのが私の個人的な意見だが、今回は地域を絞り信州のレイラインがこんなに良いところだときちんと伝わるすばらしい文章だと思う。

北沢委員

この文章はどなたが書いたのか。

竜野生涯学習・文化財課長

基本的には職員の和根崎が担当だが、和根崎補佐の方で推考を重ねていろいろ皆さんに見ていただきながら作ってきている。ベースは課の職員が考えた。

北沢委員

非常に読みやすく、文章が整っている。特に文末表現が違い、変化があって読みやすい。全体的に文章の切れが良く、すばらしい表現になっている。

平田委員

2度目の挑戦ということで非常に期待している。レイラインという言葉の響き、塩田平にポイントを絞り受け止めやすい流れになっていると思う。1点お伺いしたいが、これまで長野県内でも認定された地域がある。茅野市などの黒曜石に纏わるストーリーが認定されているが、その後どのように観光や教育に活かしているか、分かる範囲でお伺いしたい。

竜野生涯学習・文化財課長

担当の方で教育的に認定されたところだが、特に県外をまたいで長和町さんの黒曜石が最終的にいちばん全面的に行いましょうことでタイトルになり内容になったことであった。やはり、長和町については、それをお祭りなどいろいろなところで日本遺産認定を多く出しながら、観光等に役立てていることを聞いている。また実際にそのようなところの認定に携わっている人にお伺いしたところ、今後そういったところをさらに使っていきたいということであった。そのほか、長野県内では木曽路が広域で岐阜県が含まれて連携をとりながら行っていくことで、もともと木曽は放っておいても観光客はくるが日本遺産になったことで、それは売りとして使っていくようである。

平田委員

日本遺産に認定されることを一番に希望するが、前回の「映画のまち」信州上田の内容もとてもうまくまとめられている。せっかく作っていただいたものなので是非活用をお願いしたい。

竜野生涯学習・文化財課長

それについては市民のたくさんの思いが入っている。だからこそ広くなってしまった部分はある。いずれにしてもこれで認定申請が終わるので、2つのテーマをもう少しブラッシュアップして市民の皆さんに観光の中で使っていただけるようにしていきたいと思っている。

綿谷委員

今回、認定の枠は17件ぐらいで確率的には。

竜野生涯学習・文化財課長

文化庁に聞いたら最低70は認定候補に出てくると聞いている。70というのが初めての申請ではなく、ほとんど2回、3回とだめだったところがブラッシュアップをして出てくる。私どももそうだが、そのような中の17/70の確率で相当厳しいとは話をしている。ぜひ勝負をしていきたいと思っている。

峯村教育長

発表は5月下旬となる。楽しみにしたいと思う。

○全員了承

(5)史跡上田城址整備専門家会議の設置について（生涯学習・文化財課）

○資料5により竜野生涯学習・文化財課長説明（要旨）

資料5をご覧ください。城跡の整備については、文化庁第2課というところがあり、協議を重ねている中で、いちばんは文化庁で期待しているところは確たる証拠である。ただ、古い写真等はなかなか見つからない現状の中で、現在ある西櫓を持ち物として、櫓のかたちのスタイルとそのようなことは復元整備に造詣の深い学識経験者の指導を得る必要がある。それにあたって現在も「専門家の指導を得るための委員会等」を組織するよう文化庁から求められている。資料の下欄に委員候補者と専門分野が記載されているが、皆さんのご覧になったことのある委員さんも多数入っているわけだが、そういった重厚な方たちに集まっていただいて、協議していただき意見を述べていただければ文化庁も動いていただけるのかというように期待しての会議である。2月以降に設置して、少なくとも年度内には1回開催し、来年度2回、3回と開催していきたいと思っている。委員さんの中で例えば、3番目の小和田哲男さんについ

ては静岡大学の先生だが、NHK大河ドラマで歴史考証を担当されていることで今回も「麒麟がくる」でも非常にお忙しい方である。また、上から5番目の千田嘉博さんについても奈良大学で学長されていたが、城郭といえば千田先生というほどにマスコミでも登場されている方である。それぞれ実績のある専門家の皆さんにご参加いただいての開催と考えている。また、せっくなので、先生方が見えたときには講演会などの企画もできればと考えている。

峯村教育長

ただ今のご説明についてご質問、ご意見等お願いしたい。

上田市民の悲願である櫓をどうしてもつくっていききたいという願いがある。これまで10億円を寄付された方、城下町活性化会からも寄付をいただいている。ふるさと納税からも寄付がきている。ふるさと納税からご寄附をいただいた方への説明はなかなか難しいが、ほかの10億円寄付者と城下町活性化会の皆さまについては、この会議の進み具合などそのようなことについては逐一でご報告をしていきたいと思う。

○全員了承

(6)令和2年ことぶき大学・ことぶき大学院生の募集について（中央公民館）

○資料6により小泉中央館長説明（要旨）

ことぶき大学については昭和60年度から、ことぶき大学院については平成10年度から始まって34年、17年を終了している。今までの卒業生の数だが、大学は1,700名、大学院では500名を数えている。ことぶき大学については4年間幅広く科目を学ぶに対して、大学院については2年間、文系、自然系の2つのコースに分かれて専門的な内容から修得する学びとなっている。人生100年時代を迎えて、高齢者に対する学びというものは非常に重要になっていて、来年度のカリキュラムについては、お配りした資料の中に見開きのページをご覧ください。特徴としては単なる学びということで終わらせることなく、体験しながら学習し、学びを深めること、あるいは地域づくりの主体者となるようなきっかけづくりや、信州上田学にも位置付けられている地域の歴史文化を学ぶ講座を充実させて、郷土愛を愛する心を町政することとした内容としている。講義を聞くだけでなく、お互いの考え方や経験を話し合い、主体的な学びを取入れることを先生誰も講師の方をお願いしていることは、クラブ活動の内容も充実させていただいて仲間との絆づくりを大切にしている。令和2年度の募集期間については、2月4日から2月25日までの間となっているが、現在いくつかお電話でのお問い合わせも多く、その中で私が受けた内容によると、長い間働いてきたがこの機会に学びたいというようなこと、事前の電話等もいただいているので、今年度も大勢の方のお申し込みをいただけたらと思っている。

峯村教育長

ご質問、ご意見があればお願いしたい。

ことぶき大学院の卒業された方の中で、有志でアカデミーを作っている。引き続き勉強をしていきたいというようなそのような活動である。ことぶき大学、ことぶき大学院の中で学んだ学友というか、一緒に学んだ人たちと非常に良い関係でさらに学んでいる。そのような意味で社会教育、生涯学習を推進する意味でことぶき大学、ことぶき大学院はとても大事だと感じている。

○全員了承

（７）企画展「上田ひな人形」について（市立博物館）

○資料７により滝沢市立博物館長説明（要旨）

このチラシだが、主にひな人形は布製品からできている。こういったものは他のさまざまな史料に比べると劣化しやすく古いものだと２００年ぐらいいは経っている。もうすでに博物館に寄贈される段階で持ち物等が失われていたり頭髮が失われていたり、なかなか傷んでいるものが多いので、その中でひな人形をみていただくことで調整をしているところである。今年度はひな人形展の特徴として五人囃子の楽器等に注目し、この楽器を持っているところが皆さんご存知のとおり特徴的なわけであるが、その鼓など古い史料を見ていただいて、庶民、武士の家で長年にわたって培われてきた行事と思いの込められた人形をこの季節にぜひ見ていただければと思う。また、同時公開として昨年、新収蔵これは寄託品であるが、赤松小三郎の所用が赤松研究会より寄託を受けた八分儀・弾薬箱・ミニエー銃を赤松が持っていた、あるいは史料を今回具体的に見ていただくことができるので、ぜひお越しいただきたい。

峯村教育長

ただ今の内容について、ご質問ご意見をお願いしたい。

横関委員

今年は、五人囃が持つ楽器を一部ご覧いただきますということだが、文章の中にある記載を見落としてしまうこともある。このチラシをつくるときに、今年はこのようなことを行うということを少し大きく目立つように記載いただけると注目してきてくださる方もいらっしゃると思う。いかがだろうか。

滝沢市立博物館長

毎回、テーマを設けて展覧会を開催しているが、ご意見いただいたとおり直すべきところは直していきたいと思う。

峯村教育長

このパンフレットの裏面の文章上から３行目の「穢れ」という言葉だが、この言葉は非常にデリケートで難しい言葉だと思うが。

滝沢市立博物館長

確かに、教育長のおっしゃることはよく分かる。例えば、以前行った真田丸特別展でも江戸時代の史料に現在の価値観からすると必ずしも同意を得られないような史料については展示をしないというようなことをしてきた。ただ、この場合の「穢れ」という言葉、まさしく雛人形の原形に求められていたものであり、これを川に流していたこともあるので、やはりここを意図的に避けてしまうことは思いが伝わらないと思ったので、歴史的にこれは伝えていかなくてはならないと判断したのであえてこのような文字を使わせていただいた。

峯村教育長

市民から問い合わせがあれば、今の点についてはていねいにお答えいただきたいと思う。
ほかにはよろしいか。

○全員了承

峯村教育長

8番から10番までは説明はない。ご意見ご質問等があればお願いしたい。

○全員了承

(8)寄付の状況(学校教育課 上田図書館)【説明なし】

○資料8-1 8-2

(9)行事共催等申請状況について(学校教育課 生涯学習・文化財課 スポーツ推進課)
【説明なし】

○資料9-1 9-2 9-3

(10)公民館だより(各公民館)【説明なし】

○資料10

4 その他

峯村教育長

毎回、所属長からその部署についてご説明をいただいている。今回は丸子学校給食センター、深町所長お願いしたい。

(1) 丸子学校給食センターの事業について(丸子学校給食センター)

○資料11により深町丸子学校給食センター所長説明(要旨)

資料11をご覧ください。丸子学校給食センターに取組みについて、当センターは以前、峯村教育長をはじめ、教育委員の皆さまに見学いただいている。そのときのことを思い起こしながらお聞きいただきたい。目標は、子どもたちの健康な心と体を育む給食を届けるためということである。このことについては、当施設の状況が密接に関係してくるので施設のことも含めて丸子学校給食センターの取組みをご説明させていただく。まず、3安【安全・安心・安定】の給食と丸子地域の子どもたちに喜んでもらえる給食ということで、これについては、給食の作り手、給食調理員全員が子どもたちへの思いを込めた心のこもった給食をきちんと届けるということである。

1. 全施設の概要

現在の施設は平成21年3月にできて10年が経過した。丸子地域の4つの小学校と2つの中学校に給食を届けさせていただいている。小学校と中学校の共通した1献立となっていて、学年等で量を調整して提供させていただいている。処理能力としては3,000食作れる施設でこの施設できた頃は2,300食を提供していたが、子どもたちの減少により現在約1,700食となっている。そこへ働いている職員は全体で25名である。その内訳は、調理員が19名、正規が6名、非常勤は13名、給食配送要員1名とあるが、この職員は西内小学校が給食センターから片道16kmもあるため、給食を配達するための職員として働いていただいている。栄養士は県栄養教諭1名、もう1名がアレルギー食担当として非常勤栄養士の計2名で対応している。事務職については、私を含めて3名の正規が2名、非常勤が1名である。

2. 施設の特徴

丸子のセンターは、先ほど申し上げた安心・安全・安定を目指した設計思想となっていて、施設そのものも大事な要素になっている。そのため特色①ドライ仕様（ハード面、ソフト面）において取組んでいる。これについては衛生的な環境の提供となっているが、ハード面にウツについては、施設そのものがドライシステムであることで温度・湿度を均一に保つ空調システムになっているとともに、施設は処理水が飛び出さないような設計になっている。ただ、完全にこぼれないわけではないので、その場合についてはソフト面で人的に調理後ただちに処理をしている状況である。②高機能の厨房設備を機能的に配置している。これは安全な環境の提供になっていて、1つ目は、幅広いメニューを作り出す厨房設備は、建設当時最新のもので10年は経っているが、作業動線に配慮した機能的な配置になっている。これについては作業動線に交わらないことになっているので、衛生面と現場で働く職員が働きやすい環境になっている。その中で衛生的でおいしいメニューが作れる高機能の厨房設備となっていて、遠赤外線スーパーフライヤーで揚げ物をし、スチームコンベクションオーブンで蒸す、焼く、揚げる調理や、ブラストチラーの急速冷却器、蒸気回転釜などにより給食をおいしくできるような設備も設置している。③作業区域の分離をして作業ごとの個室化である。これについては衛生的な環境の維持となっているが、施設を「汚染作業区域」と「清潔作業区域」に明確に分けていて、さらに野菜、魚肉、卵それぞれの下処理室を別々に設け、雑菌などの拡散を防止している。作業動線に交わらないハセップ（食品衛生上の工程管理手法）の概念に沿った作業工程に準じてチェックをしながら給食を作り上げて安全衛生管理を徹底している。④食物アレルギーの対応については他のセンターにはなく、中には食物アレルギーを持つお子さんがいて、そのお子さんたちにも食物アレルギーがないお子さんと同様に誰もが楽しめる給食の提供できるようにということである。その対応では、施設内にアレルギー食の専用調理室があり、医師の診断に基づく保護者の申請により、アレルギー専門の栄養士と調理員が除去食や代替食を実施して現在の対象の児童は50名である。⑤ビュッフェ給食・思い出給食を実施している。これについては食育の推進につながるよう、食への関心と食の大切さを考える機会として、食育に関する授業の実施はもちろんのこと、行事食、郷土食、希望献立、ビュッフェ給食、思い出給食も提供している。その中でもビュッフェ給食は年1回の実施をしていて、毎年9月に中学生が文化祭等で給食が提供できない日に小学校6年生を対象に提供している。食事バランスガイドを基本に栄養バランスと自分に合った量を考えながら、料理を一人ひとり選び盛り付け食べる給食である。事前に食育の授業の中で栄養士が食育の話をするとともに実際に生徒自ら食べたい給食をバランスよく取り入れる。そして、実際に各クラス単位でまとめ、例えば、エビフライやから揚げ、ハンバーグ等、児童生徒たちが望む給食をクラス単位で提供して食べていただく給食である。続いて、思い出給食は、中学3年生を対象にこれまでの学校給食で好きな給食をリクエストしてもらい、それを3学期に随時提供している。思い出の学校給食献立を考える機会とし、給食への関心を高め、食べる楽しさを味わう給食である。⑥調理作業の見える化を図っていて、これについては衛生管理や安全管理の徹底につながっているものである。「作業行程表」や「動線図」の作成を通じて、誰が見ても分かるようにし、これにより判明した作業や設備上の課題を随時協議するなどして、全職員でコミュニケーションを図った情報共有をして働きやすい職場環境づくりを努めている。⑦食育や給食センターに関する情報提供である。これについては食育の推進につながっているが、「給食だより」を各学校に年間210回発行していて、ホームページ、PTAとの懇談、地元のイベントなどを通じ、食育や給食センターに関する情報を発信している。

委員の皆さまには、昨年度、給食センターの改築について大変ご苦労いただき感謝している。その際に、丸子の給食センターをご覧いただいたわけだが、非常に参考になったことと、次に訪問した第二学校給食センターの差に大変驚かれたかと思う。ただ今のご説明について、何かご意見等があればお願いしたい。

北沢委員

保護者は学校給食に大変関心があると思う。ほかの給食センターでは、給食センター見学後に、そこで試食というようなことがあったと思うが、丸子給食センターもそのようなことを行っているのか。

深町丸子学校給食センター所長

各学校のPTAの皆さんにきていただいて、施設の見学と試食をしていただいている。また学校においても子どもと一緒に給食を食べていただくようなこともさせていただいている。

北沢委員

資料には記載してあるのか。

深町丸子学校給食センター所長

記載していない。

平田委員

昨年度お伺いしたときに、子どもたちのために安心・安全・安定した給食を提供していただいていると感じた。そのときにも残食についてお伺いしたかもしれないが、現在の残食の量と処理の仕方はどのようにされているか、日々、量は変わらと思うがお伺いしたい。

深町丸子学校給食センター所長

残食については手元にデータがないため申し上げられないが、給食の雰囲気によって日々変わってきている。残食がない日はないが。

平田委員

昨年と比べてどうか。また、年々増えているのか。

深町丸子学校給食センター所長

給食のメニューによってはだが、その中でも実は、パンの業者が昨年度と本年度で変わった。昨年度の業者の都合で提供できなくなりパンの業者が変わった。主力の業者であるが、若干パンの、以前のパンとの違いもあってなかなか食の方に結びつかない場面もあった。業者の方でも努力していただいて、より良いパンを提供できるようにしていただいているので当初に比べれば少なくなっていると思う。残食の処理の方法だが、以前は地元にあるイノシシなどを飼っているお宅に処分していただいたが、衛生面も考慮して昨年度の途中から切り替えてクリーンセンターで処分している。

平田委員

食品ロスの削減についてはSDGsの取組の中でも問題の一つとされている。給食においても残食のあり方は教育委員会として考えていかなくはならない課題である。ビュッフェ給食

で子どもたちが自分の食べられる量を知るということも大切である。学校ごとに取り組まれ担任の先生に委ねられている場合が多いと思うが残食のないクラスもあると聞く。今後精査できることであれば、学校教育課としても検討していただきたいと思う。

深町丸子学校給食センター所長

学校の方でも工夫していただいている。子どもによってはきちんと食べられる子とそうでない子がいるようである。クラスごとだが最後に食べられる子がいるので残食をできるだけ出さないようにとこちらから学校にもお願いしている関係で、先生方にもご努力していただいている。希望をとって食べていただいているクラスもあって残食がゼロの日もある。そのほか、年齢が高くなるたびに身体のことを気にする中学生になるとできるだけ食べないお子さんが出てきているようなので、できるだけそうならないように食べられる給食を作り続けられるよう、学校と連絡帳でやりとりしている。それを踏まえて栄養士の方で次回こういう工夫をしようということで、少しでも残食がないように食べ切れるような給食を作り続ける努力は引き続きさせていただきます。

平田委員

子どもに寄り添った給食を作るということは大変大切なことであるが、子どもたちの意識を変えることも必要ではないか。給食が出て当たり前だという気持ちがあるようではいけない。食べられるということに感謝しているか。なぜ食べなければいけないのか。食育については様々な取り組みをしていただいているが、子どもたちが主体的に考えられる取り組みが必要ではないか。

横関委員

④の食物アレルギーの対応についてだが、あれだけ狭い中で子どもたちに細かくアレルギー対応をしてくださっているが、今アレルギー対応の生徒が50人ということで今後も増えていくという見通しはあるのか。

深町丸子学校給食センター所長

今月からだが、来入児のアレルギー食について保護者との面談をはじめている。学校の方から報告いただいている分では10人の申し出があり、10人の保護者と面談を実施している。中学3年生に2人いるが卒業される。今、10人だとすると2人減って8人増えて現在の50人と合わせて58人の見込となる。

横関委員

ますますこれからはアレルギー対応が増えてくる。できるだけ早めにこうしてほしいと要望があれば出していただいて、いつでも子どもたちに安全安心でおいしい給食というものを持続的に提供していただけるようお願いしたい。丸子地域へ学校訪問させていただくとおいしい給食をいただいている。これは、安全安心を行っているこそのおいしさなどと思うので、これだけアレルギーの子たちがたくさんいると、ヒューマンエラーということもなきにしもあらずということもあると思うのでぜひどのような方策が考えられるのか、またアレルギー対応の栄養士さんや調理師さんが不足しているということも耳にするが、そのようなところも先見の目をもって進めていただきたいと思う。

綿谷委員

丸子学校給食センターは処理能力が3,000食の中で当初2,300食から現在1,700食とだいぶ減ってきている。これからも多分減っていってしまうと思うが、その中で職員の数というのは平成21年の頃と比べて減ってきているが。

深町丸子学校給食センター所長

総数とすると、若干多いが、正規職員が当初正規の給食調理員が11名いたが、今は6名となっている。その関係で非常勤職員の方を採用して業務にあたっている。それが今の丸子給食センターの課題にはなっている。基本的に非常勤職員の方についてもOBの方を中心にして正規の方と同じように担っている。できるだけ正規の職員を確保できるよう、総務課の方にも働きかけている状況である。

綿谷委員

よく自校給食などは、例えば松茸ご飯を出すことは何か思い出給食などリクエストがあった場合なのか。

深町丸子学校給食センター所長

思い出給食は、小学校6年間、中学3年間食べていただいた給食の中で、これは思い出に残って食べたいというものをリクエストいただいて随時メニューのバランスを考えながら提供させていただいている。

峯村教育長

ほかには何かないか。それではここですべて終わったが、このほかに委員の皆さんから何かご意見等あればお願いしたい。

よろしいか。それでは以上をもって教育委員会1月の定例会を終了する。

○全員了承

閉 会

教育委員会会議規則第 21 条の規定により署名する。
